

科目名	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)			ナンバリング	858122	授業形態	講義
対象学年	1・2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	西脇陽子〇	担当教員					

授業の概要	家族に関わる臨床の実践の為に必要な家族心理学の理論的理解を深め、更に家族を援助していく上での具体的・実践的な技法を演習やロールプレイ等の体験を通して習得することを目標とする。 又、教育領域、精神科医療保健領域、ソーシャルワーク領域における家族療法の位置付けを理解し、地域社会と家族との関係を考えていく力を養うことを目的とする。						
到達目標	1. 家族療法を行う際に家族に対し適切なアセスメントとアプローチを考える力を身に付ける。 2. 臨床場面では体得した技法を適宜使うことができる力を身に付ける。 3. 家族関係を支援していく上では多職種との連携は必要であり、地域社会や集団・組織に働きかけていく心理学的援助が実際にできる力を身に付ける。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文献講読、レジュメ作成、ならびに発表については事前準備が必要であり、不明な点がある場合は講義前に調べておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【人文学研究科 臨床心理専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
		1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。					
	○	2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。					
	○	3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。					
		4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。					
		5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 家族心理学の理論的理解を深め、レジュメを作成できる。 2. 家族心理学の代表的技法を演習やロールプレイの中で使うことができる。 3. 家族関係を支援していく上で、必要に応じ多職種との連携の仕方を考える。	1. 家族心理学の理論的理解を深め、自分の意見や疑問も盛り込んで、レジュメを作成し、説明できる。 2. 家族心理学の代表的技法を家族の抱える問題に応じてアセスメントし、演習やロールプレイの中で使うことができる。 3. 家族関係を支援していく上で、必要に応じ多職種との連携をはかりながら地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助を考える。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○				○		30%
宿題・授業外レポート	○	○			○		40%
授業態度・授業への参加		○	○	○			30%

課題、評価のフィードバック	1. レジュメ作成・発表の際に適宜コメントする。 2. お互いに議論を交わし、疑問点についてはコメントする。 3. 演習・ロールプレイの中で必要なフィードバックをする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	心理学史上での家族心理学の位置付け	家族の心理支援に家族心理学の理論が重要視されてきた歴史的背景を解説する。	
	第2回	家族システム理論	家族療法の基盤となっている家族システム理論を解説する。	
	第3回	家族療法の考え方	個人療法と家族療法の相違と各々の技法を解説する。	
	第4回	家族システム論の発達的变化	家族システム論の時代的流れの中での発達的变化、及び新しい視点を解説する。	
	第5回	多世代家族療法	多世代家族療法の代表的理論と技法・ジェノグラムについて解説する。	
	第6回	コミュニケーション学派の理論	コミュニケーション学派、及び戦略学派の理論と技法を解説する。	
	第7回	ミラノ学派の理論	ミラノ学派の理論と技法を解説する。	
	第8回	構造学派の理論	構造学派の理論と技法を解説する。	
	第9回	ナラティブ学派の理論	ナラティブ学派の理論と技法を解説し、時代の流れの中での位置付けを説明する。	
	第10回	家族療法の実際 ロールプレイを通し体験する	家族療法の技法とアセスメントを解説し、ロールプレイを通し体験する。	
	第11回	家族ライフサイクル	家族ライフサイクルの各段階の課題と危機管理を解説する。	
	第12回	教育現場での家族療法的視点	教育現場での課題(不登校、いじめ、自傷、発達障がい)を家族と社会との関係から解説する。	
	第13回	家族への心理教育的アプローチ	包括的アプローチについて解説し、更に統合失調症、摂食障がいへの心理教育的アプローチを説明する。	
	第14回	精神障がい者・発達障がい児、及び家族へのアプローチ	社会復帰に向けての認知行動療法を解説し、地域社会と家族との関係を考えていけるように説明する。	
	第15回	家族療法を模擬家族で体験する	現代の家族の抱えている問題(自死、災害と家族)を模擬家族で体験する中で解説する。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする。適宜演習を実施する。		
授業外学習の指示		文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。不明な点については調べておくこと。 講義内容を毎回復習し、理解を深めること。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
参考URLなど	特に無し。
その他	